

整理番号 kariya-1

作成年月日 2017年9月8日

製品安全データシート

1. 化学物質等及び会社情報

化学物質の名称 水酸化カルシウム
会社名 全国農業協同組合連合会
担当部署 肥料農薬部
住所 〒100-6832 東京都千代田区大手町 1-3-1 JA ビル 33F
電話番号 03-6271-8285
FAX 番号 03-5218-2536
電子メールアドレス zz_hiyaku-gizyutsu@zennoh.or.jp
緊急連絡先 03-6271-8285

推奨用途および使用上の制限：肥料用及び肥料原料用。肥料用途以外には使用しないで下さい。

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性	火薬類	分類対象外
	可燃性・引火性ガス	分類対象外
	可燃性・引火性エアゾール	分類対象外
	支燃性 酸化性ガス	分類対象外
	高压ガス	分類対象外
	引火性液体	分類対象外
	可燃性固体	区分外
	自己反応性化学品	分類対象外
	自然発火性液体	分類対象外
	自然発火性固体	区分外

	自己発熱性化学品	区分外
	水反応可燃性化学品	区分外
	酸化性液体	分類対象外
	酸化性固体	分類できない
	有機過酸化物	分類対象外
	金属腐食性物質	分類できない
人健康有害性	急性毒性（経口）	区分外
	急性毒性（経皮）	分類できない
	急性毒性（吸入 気体）	分類対象外
	急性毒性（吸入 蒸気）	分類できない
	急性毒性（吸入 粉塵）	分類できない
	急性毒性（吸入 ミスト）	分類対象外
	皮膚腐食性刺激性	区分2
	眼に対する重篤な損傷 眼刺激性	区分1
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器・全身毒性 （単回ばく露）	区分1（呼吸器系）
	特定標的臓器・全身毒性 （反復ばく露）	区分2（肺）
吸引性呼吸器有害性	分類できない	
環境有害性	水生環境急性有害性	分類できない
	水生環境慢性有害性	分類できない

ラベル要素

絵表示またはシンボル：



注意喚起語： 危険
危険有害性情報： 皮膚刺激
重篤な目の損傷
呼吸器系の障害
長期又は反復ばく露による肺の障害のおそれ

注意書き： **【安全対策】**

適切な保護手袋を着用すること。
適切な保護眼鏡、保護面を着用すること。
粉じん、ヒュームを吸入しないこと。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
取り扱い後はよく手を洗うこと。

【応急処置】

皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。
皮膚に付着した場合、汚染された衣服を脱ぐこと。
汚染された衣服を再使用する前に洗濯すること。
眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼に入った場合は直ちに医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合、皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを求めること。
気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。

【保管】

施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

国 地域情報：

3. 組成、成分情報

化学名又は一般名： 水酸化カルシウム (Calcium hydroxide)

別名 消石灰 (Slaked lime)
(Hydrated lime)
(Calcium hydrate)

化学式： Ca(OH)_2

官報公示整理番号 (1) - (181)

(化審法 安衛法) :

CAS 番号 : 1305-62-0

分類に寄与する不純物及び安定添加物 : 情報なし

濃度又は濃度範囲 : 情報なし

4. 応急措置

吸入した場合 : 被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休憩させること。

気分が悪い時は、医師の手当て、診断をうけること

皮膚に付着した場合 : 直ちに、汚染された衣服をすべて脱ぐこと、または取り去ること。

皮膚を速やかに、流水又はシャワーで洗浄すること。

多量の水と石鹼で洗うこと。

皮膚刺激が生じた場合、医師の手当て、診断をうけること。

汚染された衣服を再使用する前に洗濯すること。

目に入った場合 : 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用して

いて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

直ちに医師にれんらくすること。

飲み込んだ場合 : 速やかに口をすすぎ、直ちに医師の手当て、診断をうけること。

予想される急性症状 吸引した場合 : 咽頭痛、咳、灼熱感。

および遅発性症状 : 皮膚に触れた場合 : 刺激、発赤、ざらつき、痛み、皮膚の乾燥、
薬傷、水泡

眼に入った場合 : 発赤、痛み、重度の薬傷。

飲み込んだ場合 : 灼熱感、腹痛、胃痙攣、嘔吐。

最も重要な兆候及び症状 :

5. 火災時の措置

消火剤 : 小火災 : 粉末消火剤、二酸化炭素、散水

大火災 : 粉末消火剤、二酸化炭素、耐アルコール性泡消火剤、散

水

特有の危険有害性 : 火災によって刺激性、毒性、又は腐食性のガスを発生するおそれがある。

加熱あるいは水の混入により容器が爆発するおそれがある。

特有の消火方法 : 危険でなければ火災区域から容器を移動する。

容器内に水を入れてはいけない。

消火活動は、有効に行える最も遠い距離から、無人ホース保持具やモニター付きノズルを用いて消化する。消化後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。

消火を行う者の保護：消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び

緊急時措置： 直ちにすべての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
関係者以外の立ち入りを禁止する。

適切な防護服を着けてないときは破損した容器あるいは漏洩物にふれてはいけない。

作業者は適切な保護具（「8. ばく露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や粉じん、ミストの吸入を避ける。
風上に留まる。

低地から離れる。

密閉された場所に立ち入る前に喚気する。

環境に対する注意事項： 河川等に排出され、環境へ影響を起こさないようにちゅういする。環境中に放出してはならない。

回収、中和 乾燥した土、砂あるいは不燃性物質で吸収し、あるいは覆って容器に移す。

漏洩物を掻き集めて空容器に回収する。

封じ込め及び浄化

方法。機材： 危険でなければ漏れを防ぐ。
粉じんの発生、拡散を防ぐ。

二次災害の防止策： すべての発火源を速やかに取り除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）

排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

容器内に水を入れてはならない。

床面に残るとすべる危険があるため、こまめに処理する。

7. 取り扱いおよび保管上の注意

取り扱い

技術的対策： 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

局所排気全体排気：「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体排気を行う。

安全取り扱い注意事項：接触、吸入又は飲み込まないこと。空気中の温度をばく露温度以下に保つために排気用の換気を行うこと。屋外又は換気

のよい区域でのみ使用すること。取り扱い後はよく手を洗うこと。

接触回避： 「10. 安定性及び反応性」を参照。

保管

技術的対策： 保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。

混触危険物質： 「10. 安定性及び反応性」を参照。

保管条件： 施錠して保管すること。

容器包装材料：国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

8. ばく露防止及び保護措置

管理温度： 設定されていない。

許容濃度（ばく露限界値、生物学的ばく露指標）：

日本産衛学会（2005年版） 設定されていない。

ACGIH（2006年版） TLV—TWA5mg/m³

設備対策： この物質を貯蔵ないし取り扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。

高熱工程で粉じん、ヒュームが発生する時は、空気汚染物質を管理濃度、許容濃度以下に保つために、換気装置を設置すること。

保護具：

呼吸器の保護具： 適切な保護具を着用すること。

手の保護具： 適切な保護手袋を着用すること。

眼の保護具： 適切な保護具を着用すること。化学飛沫用のゴーグル及び適切な顔面保護具を着用すること。安全眼鏡を着用すること。

撥ね飛び又は噴霧によって眼及び顔面接触が起これるときは、包括的な化学スプラッシュゴーグル、及び顔面シールドを着用すること。

皮膚及び身体の保護具： 適切な顔面保護具を着用すること。

衛生対策： 取り扱いはよく手を洗うこと

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態、形状色など：無色の結晶又は白い粉末

臭い： なし

PH: 12, 4（25℃飽和水溶液）

融点・凝固点： 580℃（分解）

沸点、初留点及び沸騰範囲：分解1)

引火点： 不燃性
爆発範囲： 不燃性
蒸気圧： データなし
蒸気密度（空気=1） データなし
比重（密度）： 2.2
溶解度： 水に微溶
オクタノール/水分配係数：データなし
自然発火温度： 607℃
分解温度： 580℃
臭いのしきい（閾）値： データなし
蒸発速度（酢酸ブチル=1）：データなし
燃焼性（固体、ガス）： データなし
粘度： データなし

10. 安定性及び反応性

安定性： 大気中で、炭酸ガスを吸収して漸次炭酸カルシウムになる。
加熱すると、分解し、酸化カルシウムを生じる。

危険有害反応性可能性： 酸類と反応し発熱する。
強酸化剤と反応する。
水の存在下で、多くの金属を侵し、引火性/爆発性のガス（水素）を生成する。

避けるべき条件： 空気との接触。加熱。

混触危険物質： 酸類、強酸化剤。水の存在下で、多くの金属を侵す。

11. 有害性情報

急性毒性： 経口：ラットのLD50値7340mg/kg(10.6)に基づき区分外とした。
経皮：データなし
吸入（粉じん）：データなし

皮膚腐食性・刺激性：眼及び気道を含むすべての身体表面ばく露に対し中程度の刺激性を示すとの記述(10)及びヒト皮膚に対して moderate,severe,corrosive な刺激を示すとの記述。(9)(6)(14)(13)(12)から区分2とした。

皮膚刺激

眼に対する重篤な損傷・刺激性：ヒト眼に対して moderate,severe,corrosive な刺激を示すとの記述。(10)(9)(6)(14)(13)(12)及びウサギに対して corrosive な刺激を示すとの記述。(9)から区分1とした。

重篤な眼の損傷

呼吸器感作性又は皮膚感作性： 呼吸器感作性： データなし

皮膚感作性： データなし

生殖砂防変異原性： データなし

生殖毒性： データなし

特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露）： ヒト呼吸器、軌道を刺激し肺水腫を引き起こすとの記述。1 0) 6) 1 4) 1 3) 1 2) から区分1（呼吸器系）とした。
呼吸器系の障害

特定標的臓器・全身毒性反復ばく露）： **priority2** においてヒト肺を冒すことがあるとの記述。1 4) 1 3) 区分2（肺）とした。
長期又は反復ばく露による肺の障害のおそれ

吸引性呼吸器有害性： データーなし

1 2. 環境影響情報

水生環境急性有害性： データー不足のため分類できない。

水生環境慢性有害性： データー不足のため分類できない

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物： 廃棄に於いては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行なっている場合にはそこに委託して処理する。廃棄物の処理処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。

汚染容器及び包装： 容器は清浄してリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

1 4. 輸送上の注意

国際規制

海上規制情報 該当しない

航空規制情報 該当しない

国内規制

陸上規制情報 該当しない

海上規制情報 該当しない

航空規制情報 該当しない

特別の安全対策 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止確実に行う。食品や飲料と一緒に輸送してはならない。他の危険物や燃えやすい危険物に

上積みしない。他の危険物のそばに積載しない。移送時にイエローカードの保持が必要。

1 5. 適用法令

労働安全衛生法： 名称等を通知すべき有害物
(法第57条の2、施行令第18条の2別表第9)
(政令番号第317号)

1 6. その他の情報

参考文献

- 1) ICSC(1997)
- 2) Merck(13th,2001)
- 3) IMDG(2004)
- 4) ホンメル(1991)CardNo.293
- 5) SRC(2006)
- 6) HSDB(2002)
- 7) HSDB(2002)
- 8) Patty(4th,1994)
- 9) IUCLID(2000)
- 10)ACGIH(7th,2001)
- 11)RTECS(2005)
- 12)HSFS(2005)
- 13)SITTIG(4th,2002)
- 14)ICSC(J)(1997)
- 15)Chapman(2005)
- 16)Lange(16TH,2005)
- 17) EPA SRS (2006)
- 18) Haward(1997)p.187
- 19)Weiss(2nd,1986)
- 20)DFGOT20
- 21)NFPA(12th,1997)P.325-57
- 22)CERI バサードデータ集(2002)
- 23)IARC15(1997)
- 24)SIDS(2004)
- 25)ECETOC TR91(2003)
- 26)ATSDR(1986)
- 27)CaPSAR
- 28)SIAR(1997)

- 29)Sax(11th,2004)
- 30)産衛学会勧告 (1995)
- 31)有機化合物辞典
- 32)IRIS(2006)
- 33)環境省リスク評価第 2 巻(2003)
- 34)ALGY 学会 (感) 物質リスト (案) P95
- 35)EHC78(1988)
- 36)JETOC 特別資料 No.188(2004)
- 37)Gangolli(2nd,1999)
- 38)NICNAS(2000)
- 39)EPA(1991)
- 40)IARC71(1999)
- 41)J Occup Health 45:137-139(2003)
- 42)Eur Respr J.25(1):201-204(2005)
- 43)CICAD29(2001)
- 44)NTP TR403(1992)
- 45)危険物 DB(第 2 班、1993)
- 46)NTP DB(2006)
- 47)溶剤ポケットブック(1996)
- 48)Ullmanns(E)(5th1995)
- 49)IRIS(Access on Aug2005)
- 50)CERI・NITE 有害性評価書 No64(2003)
- 51)既存化学物質安全性データー
- 52)CERI ハザードデーター集(2002)
- 53)NFPA(2001)
- 54)BIOWIN
- 55)PHYSROP Database(2005)

本 SDS は、下記株式会社刈谷石灰工業所の情報を元に作成しました。該当物質については、下記にお問い合わせください。

会社名 株式会社刈谷石灰工業所
住所 高知市五台山 2 4 5 2 番地
電話番号 0 8 8 - 8 8 3 - 0 5 2 5
F A X 番号 0 8 8 - 8 8 3 - 0 3 5 6